



北の台小学校の3年生が「絵手紙」作りに挑戦

大上地区社協が管理・運営している深谷大上ふれあいの家の火曜喫茶店で、本年5月24日に「絵手紙展」を催した事が縁で、北の台小学校から絵手紙作りを授業に取り入れたいという要望があり、12月2日（金）に実現しました。

当日は、午前8時50分に同校3年生全員の101名の児童が体育館へ集まり、寺尾北にお住まいの講師・植松正子さんのもと、大上で絵手紙を習っている「こぶし会」の会員5名と、大上地区社協の市ノ澤会長以下5名の10名がアシスタントとして参加した。

会場の体育館では、植松講師がスクリーンを使って絵手紙についての説明と実物のバナナを描いて見本を示した後、児童全員がそれぞれ持参したりんごやピーマンなどの果物・野菜を思い思いに描いた。児童たちは、始め躊躇していたが次第に熱心に描きはじめ、出来上がった作品の見事な出来栄に、内藤校長や3年生担当の先生方、そしてアシスタントの皆さんも感嘆していた。また、児童の皆さんも一様に“楽しかった！”と、声を揃えて語ってくれました。

児童の作品には『おもいよりママの心がほっかほか』もあり、絵は大きなさつま芋が描かれていました。



絵手紙作りに挑戦する児童たち



児童たちの「絵手紙」の作品



火曜喫茶店で北の台中学工芸部員の作品展



石田校長(左側)も来館される

北の台中学校から、深谷大上ふれあいの家の火曜喫茶店の店長である岩月理事に、同校のクラブ活動の工芸部員の木工作品の展示依頼があり、12月6日（火）の火曜喫茶店で「北の台中学校工芸部作品展」として催された。

当日は、同校工芸部員35名が木で作り、漆を塗って仕上げた皿や花瓶などの作品51点が展示され、地域の皆さんが見学に来館、また同校生徒も下校時に立ち寄って、力作に見入っていました。当日は石田校長も来館され、地区社協の会員や見学に来た地域の人達と親睦を深めていました。